

[成果情報名] 収穫期のブドウ「シャインマスカット」におけるチャバネアオカメムシの被害

[要約] 収穫期の「シャインマスカット」の果粒をチャバネアオカメムシが加害すると吸汁痕が生じて褐変する。果実袋の使用により吸汁痕の数は大幅に減少するが、果実袋と果粒が接する果頂部を中心に被害が発生する場合がある。また、果実袋を使用しない果房では主に果底部が吸汁される。

[担当] 山梨県果樹試験場・環境部・病害虫科・内田一秀

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

収穫期を迎えた有袋栽培の「シャインマスカット」において、果粒の果頂部が激しく褐変する症状が確認された。実体顕微鏡下の観察からカメムシ類の吸汁による被害であることが疑われた。そこで、収穫期の果房に本県の主要加害種であるチャバネアオカメムシを放虫することで症状が再現されるか検討し、防除対策の一助にする。

[成果の内容・特徴]

1. 放虫したチャバネアオカメムシの吸汁により、収穫期の果粒表面に吸汁痕が生じて果皮や果肉が褐変する。狭い範囲に集中して加害されると激しく変色する（図1）。
2. 果実袋の使用により吸汁痕の数は大幅に減少する（図2）。
3. チャバネアオカメムシは果実袋の上からも吸汁するため、果実袋と果粒が接する果頂部に被害が発生する。果実袋を使用しない場合では、吸汁痕は主に果底部に生じる（図1、図3）。

[成果の活用上の留意点]

1. 果実袋と果粒が接する部位を減らすため、果実袋と果房の大きさに留意する。
2. 防除は県防除基準を基本とし、地域におけるカメムシ類の発生状況に注意して、適正に実施する。

[期待される効果]

1. 収穫期の果房におけるカメムシ類の吸汁被害が明らかとなり、原因の正確な診断が可能となる。
2. カメムシ類防除の重要性が再認識され、被害を未然に防ぐことが可能となる。

[具体的データ]

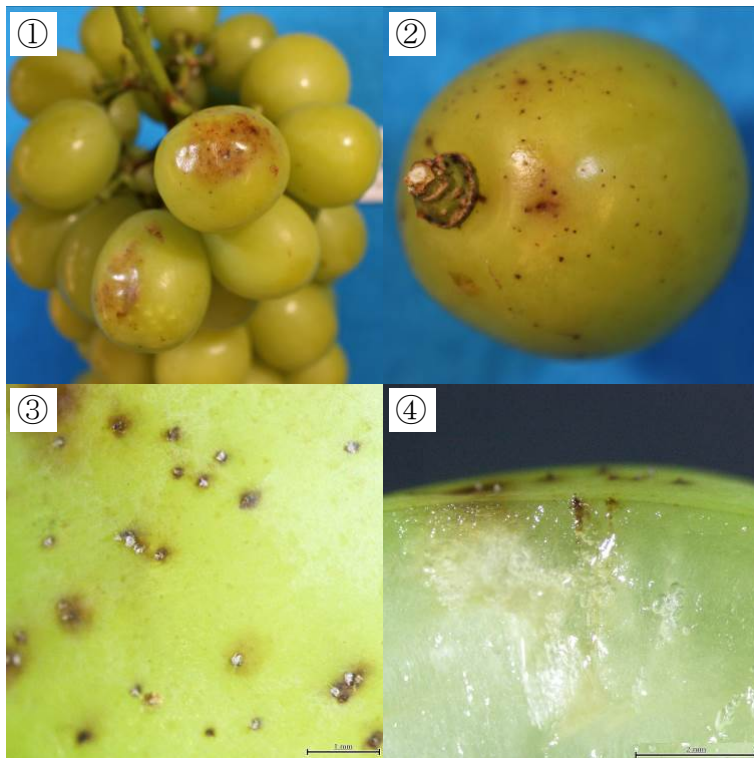


図1 チャバネアオカメムシの放虫によって再現された収穫期における「シャインマスカット」の果粒被害

- ① 果実袋を使用した果房の被害果粒。主に果実袋と接する果頂部に吸汁痕が発生する。
- ② 果実袋を使用しなかった果房の被害果粒。主に果底部に吸汁痕が発生する。
- ③④ 拡大した被害部位とその断面。カメムシが口針を刺した吸汁痕が観察できる。

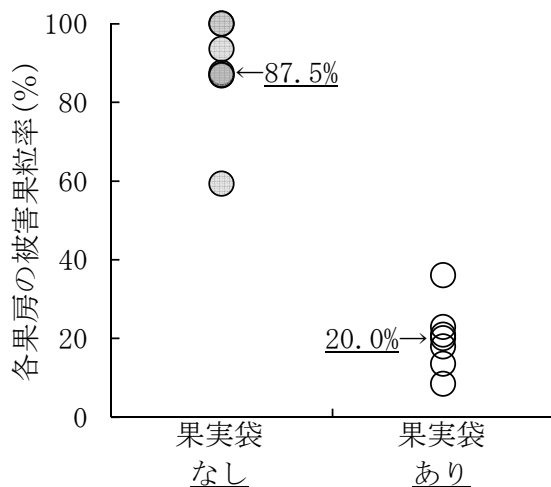


図2 チャバネアオカメムシ放虫による被害果粒の発生率

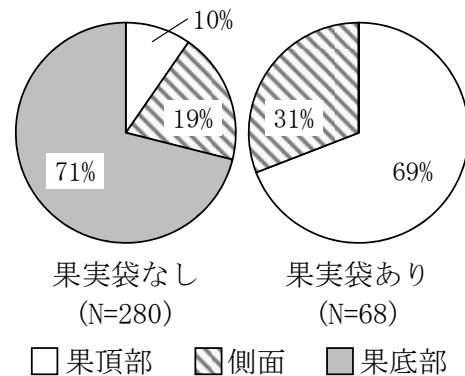


図3 チャバネアオカメムシ被害果粒における吸汁痕の発生部位

各区7果房（果粒数：27～59粒/房）を供試。図2に示した数値は、各区から得られた計7データにおける中央の値を示す。試験を開始した2018/9/12から調査を行った10/3まで、全供試果房にネット袋をかけて、袋中にチャバネアオカメムシ5頭/果房を放虫した。果実袋にはSブドウ-特大（柴田屋加工紙株式会社製）を果房に密着させて供試した。

[その他]

研究課題名：環境に配慮した防除法の改善

予算区分：県単

研究期間：2017～2018年度

研究担当者：内田一秀、綿打享子、國友義博